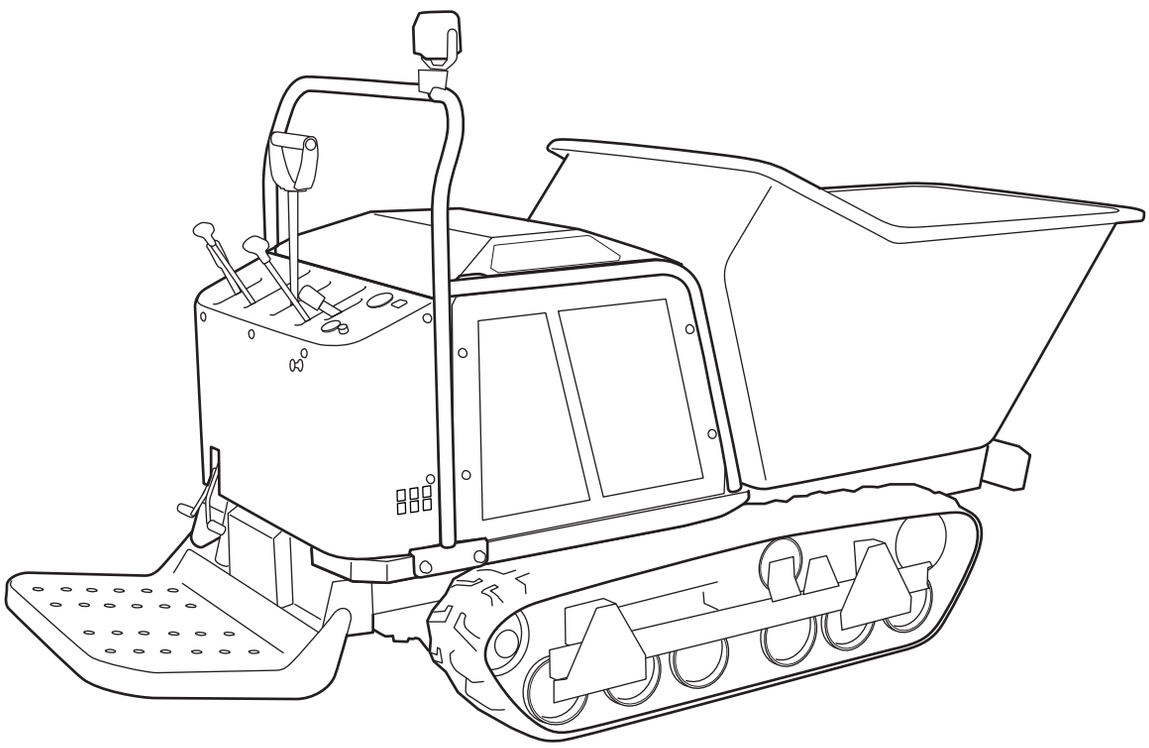
CANYCOM

不整地運搬車
ＳＣ７５

取扱説明書



⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3570 5301 001

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp/

■本社営業本部　TEL 0943(75)2195　FAX（75）4396
■東京国際センター　TEL 03(3552)6255　FAX (3552)6288
■東北センター　TEL 022(281)1255　FAX (281)3141
■関東センター　TEL 0270(63)8011　FAX（63）8012
■関西センター　TEL 0790(42)6031　FAX（42）6035
■中・四国センター　TEL 0824(34)5996　FAX（34）5997
■九州センター　TEL 0943(76)2583　FAX（75）5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

・本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品は建設用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。

・本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

リース（レンタル）業者の皆様へ

⚠ 注　意
・本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取扱方法を明確に説明し、使用前に本書を必ず読むよう指導してください。

保証とアフターサービスについて

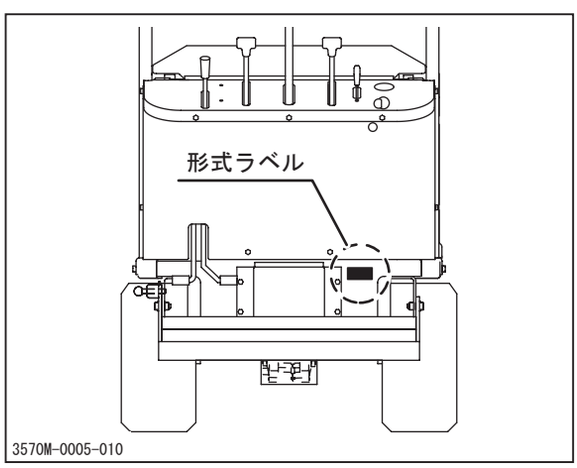
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

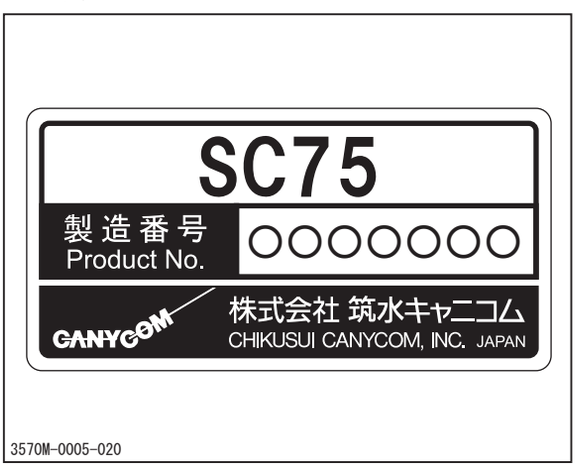
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞10ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目　　次

１．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ・・・・・・・・・・・・ 1

安全運転・作業のための心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

運転前の心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

停止のしかた ・・・

走行装置 ・・・

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

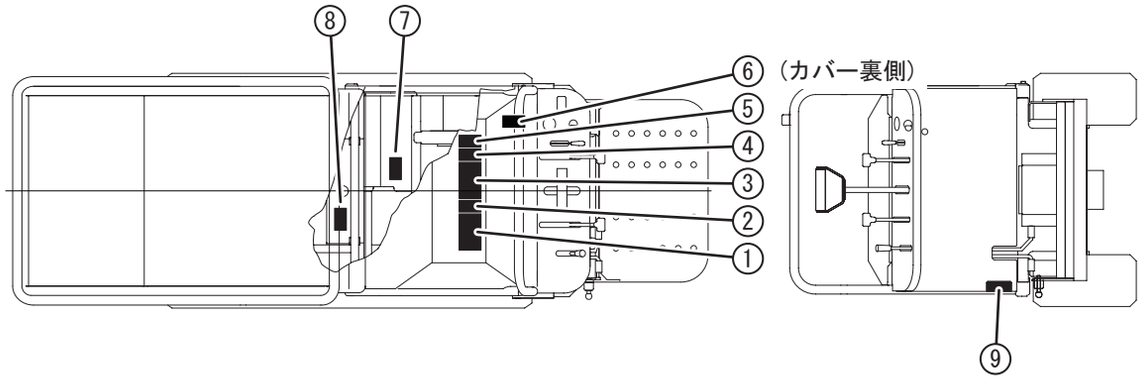
本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

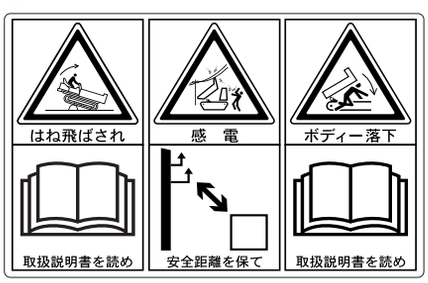
・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



①52295004000

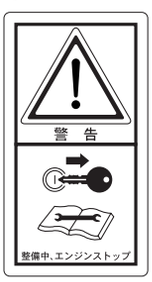
②51165025000

③52295007000



④35705237000

⑤51165027000

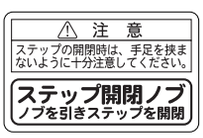


⑥52295022000

⑦51165024000

⑧53215017000

⑨35705221000

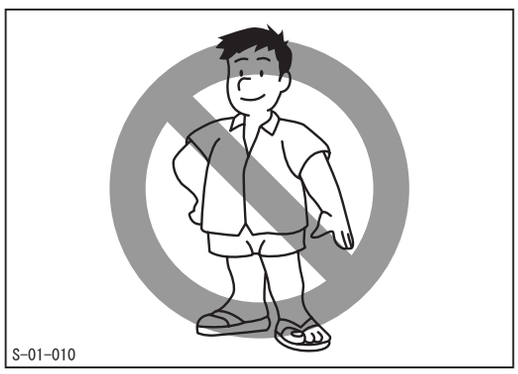


3570M-0101-010

安全運転・作業のための心得

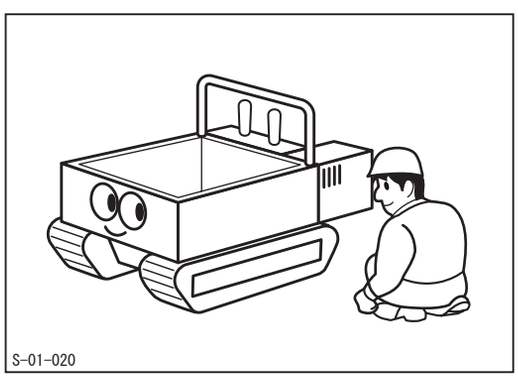
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得



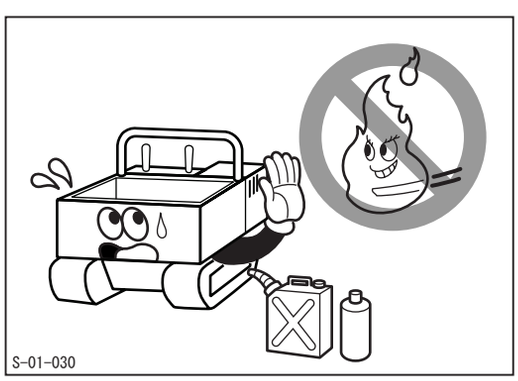
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



始業点検の励行

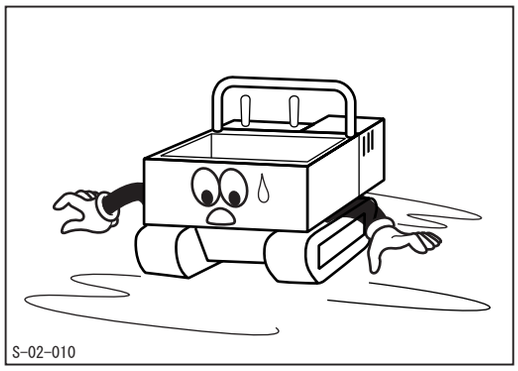
運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。



火気厳禁

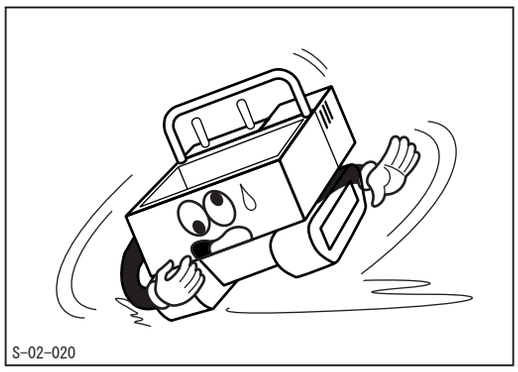
燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。

走行時の心得


S-02-010

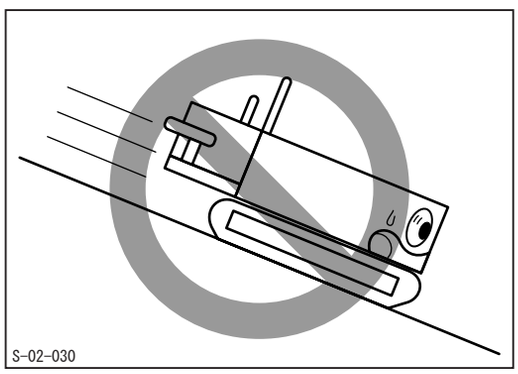
安全速度遵守

発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。


S-02-020

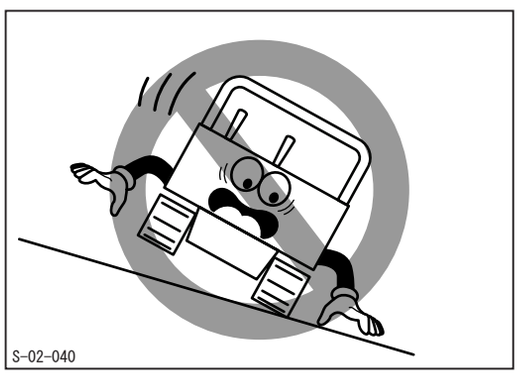
急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。


S-02-030

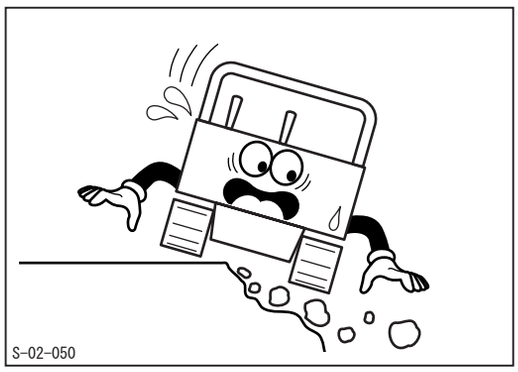
下り坂では低速で走行する

下り坂の前で一旦停止した後、エンジン回転数を下げ、エンジンブレーキを使用しながら低速で走行してください。


S-02-040

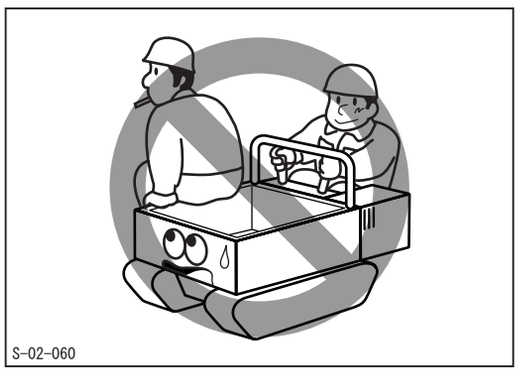
斜面の横断、旋回禁止

斜面はまっすぐ上り下りし、横断や旋回をしないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



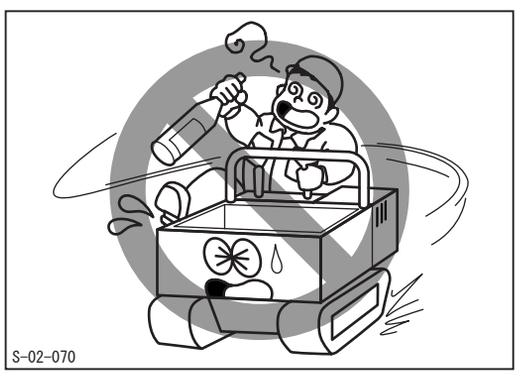
路肩の崩れに注意

溝や土手の端は、路肩が崩れ、転倒するおそれがあり危険ですので、走行しないでください。特に降雨後や地震後の地盤は崩れやすいので注意してください。



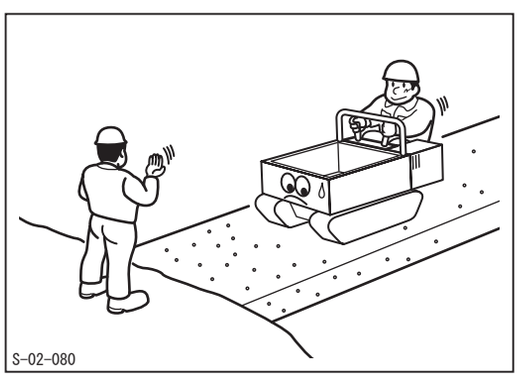
同乗禁止

本製品は一人乗りです。運転者以外の人を乗せての運転は行わないでください。



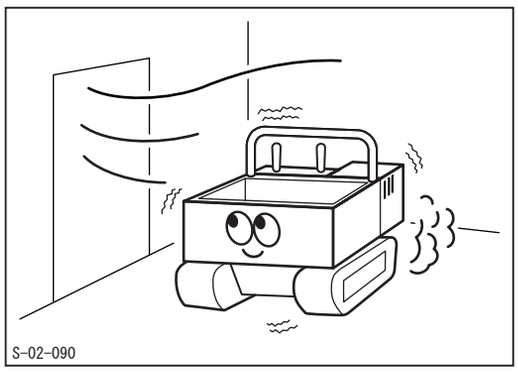
無謀運転禁止

飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。



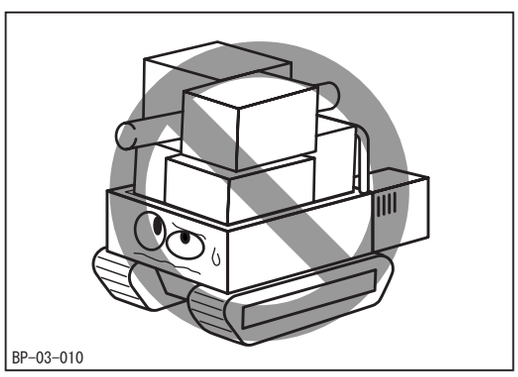
危険な場所では誘導者の指示に従う

見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

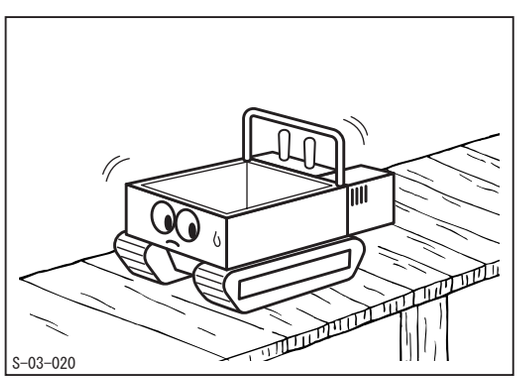


換気に注意
室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。

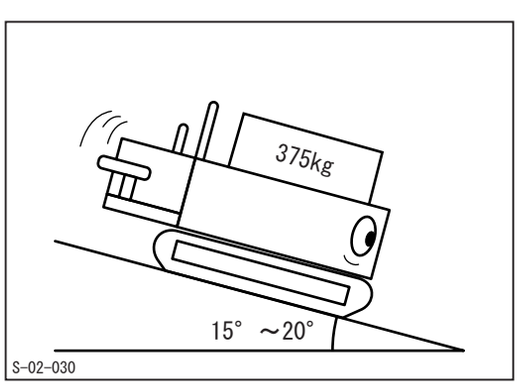
積載時の心得



過積載禁止
本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。また、偏荷重にならないよう、荷台に均一に積載してください。

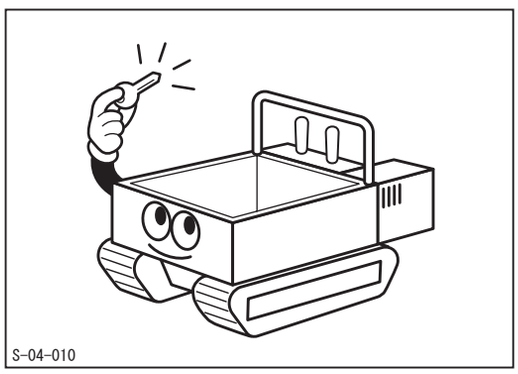


制限重量に注意
木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



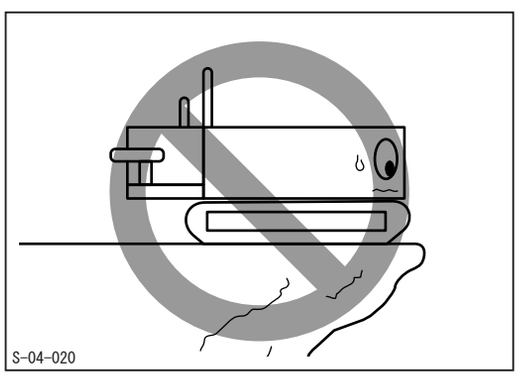
傾斜地での積載量に注意
15° ～20° の傾斜地では、積載量を375kg以下にして走行してください。20° を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。

駐車時の心得



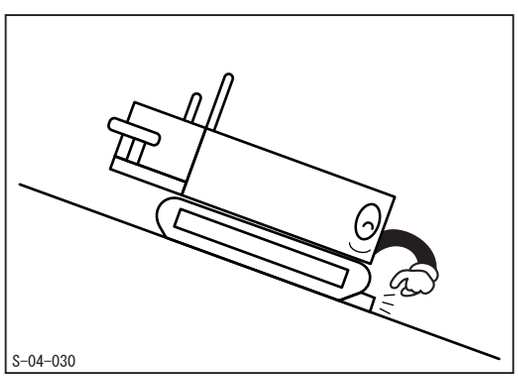
駐車時の安全確認

駐車時には必ず駐車ブレーキをかけ、エンジン停止を励行してください。また、キーを忘れずに抜いてください。



危険な場所での駐停車禁止

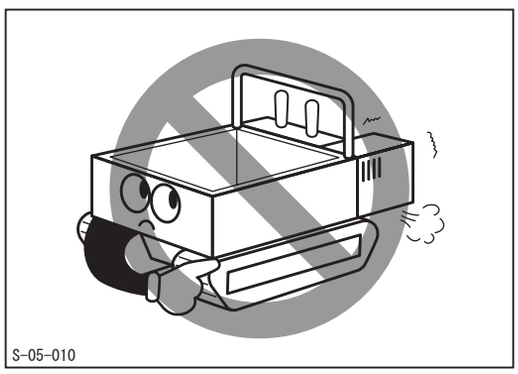
駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

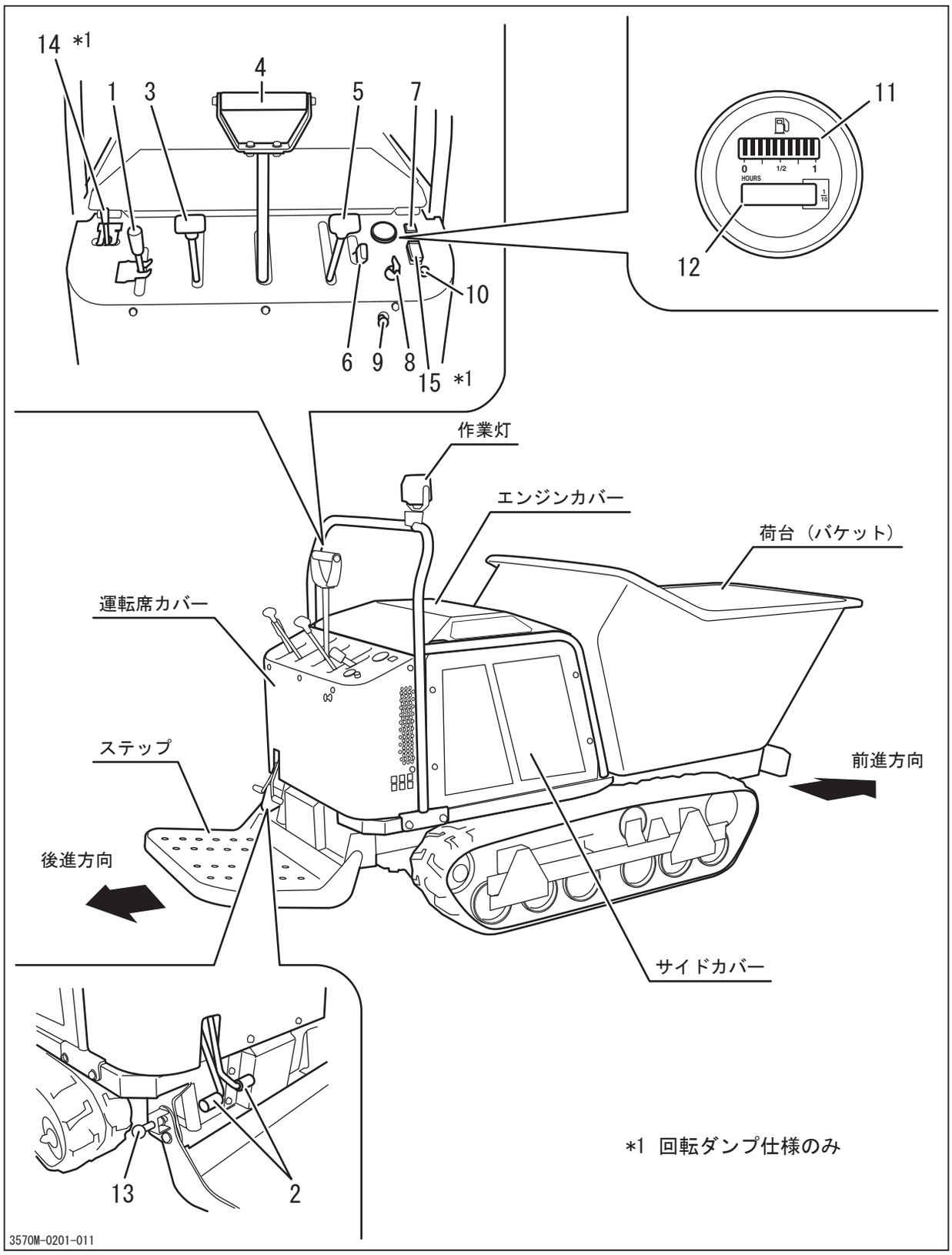
整備時の心得



エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。

各部の名称とはたらき



*1 回転ダンプ仕様のみ

各部の名称とはたらき　2

1　**ダンプレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥荷台の上昇または下降を行うときに使用します。

2　**ダンプペダル** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥荷台の上昇または下降を行うときに使用します。

3　**クラッチレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥動力を断続させます。

4　**走行レバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両を走行または旋回させるときに使用します。

5　**駐車ブレーキレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両を駐車させるときに使用します。

6　**アクセルレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジン回転数の増減を行います。

7　**オイルランプ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンオイルの油圧が正常かどうかを示します。エンジン始動後、消灯すれば正常です。

8　**メインスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動または停止させるときに使用します。

9　**チョークノブ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動させるときに使用します。ノブを引くとチョークバルブが閉じ、ノブを戻すとチョークバルブが開きます。

10 **ホーンスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥スイッチを押すとホーンが鳴ります。

11 **燃料計** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥燃料の残量を示します。

12 **アワメータ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥累計稼働時間を0.1時間単位で示します。

13 **ステップ開閉ノブ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ステップを開閉させるときに使用します。

14 **ターンレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥荷台の回転を行うときに使用します。

15 **ライトスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥スイッチを押すと前照灯が点灯します。

本製品の仕様

⚠ 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				SC75	
				一方ダンプ	回転ダンプ
機械質量			kg	640	680
最大作業能力			kN(kgf)	7.35(750)	
機械寸法	全長		mm	2695	
	全幅		mm	900	
	全高		mm	1470	
	クローラ接地長		mm	965	
	クローラ中心距離		mm	700	
	最低地上高		mm	115	
	床面高さ		mm	450	
荷箱	荷箱内側寸法	長さ	mm	1295	
		幅	mm	765	
		高さ	mm	540	
	荷箱容積	平積	m^3	0.41	
エンジン	名称			ロビン EH65DS	
	形式			空冷4サイクルV型2気筒ガソリン	
	シリンダ(内径×行程)		mm	80×65	
	総排気量		cm^3	653	
	最大出力		kW(PS)/rpm	16.4(22.0)/3600	
	最大トルク		N・m(kg・m)	45.6(4.65)	
	始動方式			セルフスタータ式	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	燃料消費率		g/kW・h(g/PS・h)	310(230)	
	燃料タンク容量		ℓ	20	
	点火方式			無接点式マグネト点火	
	点火プラグ品番			NGK BP6ES	
電装	バッテリ形式			40B19R	
	バッテリ容量		V/Ah	12/28	
	作業灯		V/W	12/18.4	

名称・型式				SC75 一方ダンプ
走行性能	走行速度		km/h	0-8.0
	最小回転半径		m	1.5
	登坂能力		度	20(空車)
	最大安定傾斜角度	左	度	30
		右	度	30
動力伝達装置	主変速形式			ツインＨＳＴ（無段変速）
	操向装置形式			ツインＨＳＴ1本レバー
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ
	クローラサイズ			200×42×72
油圧装置	ダンプ方式			フロントダンプ
	油圧ポンプ形式			ギヤポンプ
	定格回転速度		rpm	2300
	定格吐出量		ℓ/min	17.6
	リリーフ設定圧		MPa(kg/cm²)	9.8(100)
	シリンダ（内径×行程）		mm	60×400
	最大上昇角度		度	90
	上昇時間		秒	4.0
	下降時間		秒	3.4

※この仕様は、予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1	エンジン整備用

運転前の準備

始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領と頻度については**「定期点検表」**（☞25ページ）を参照してください。

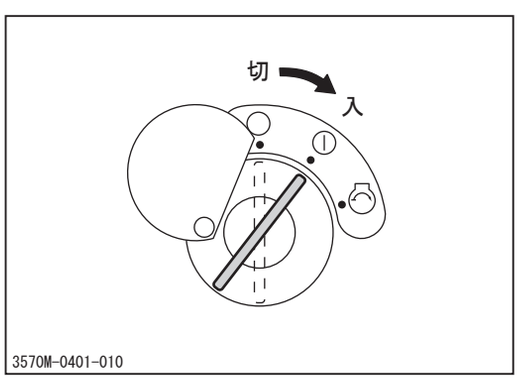
燃料の点検と補給

⚠ 警　告

- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

⚠ 注　意

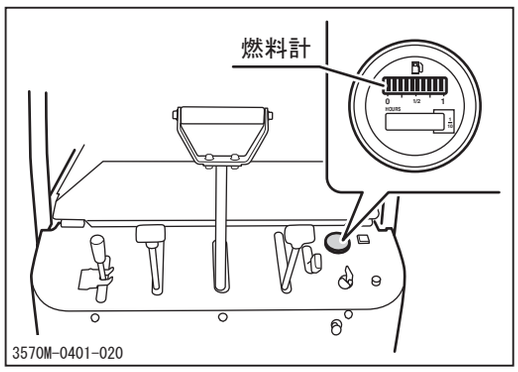
- エンジンカバーの開閉時に手や指などを挟まないよう注意してください。



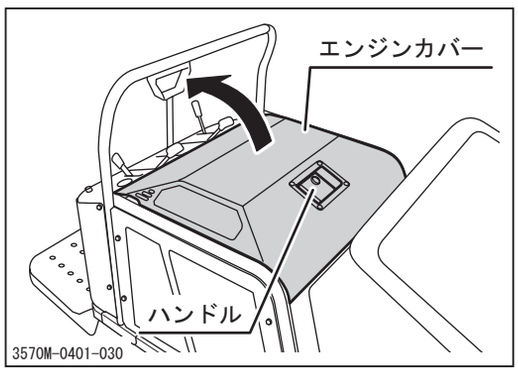
3570M-0401-010

点検

1. メインスイッチにキーを差し込みます。
2. メインスイッチを「 | （入）」にし、数秒待ちます。

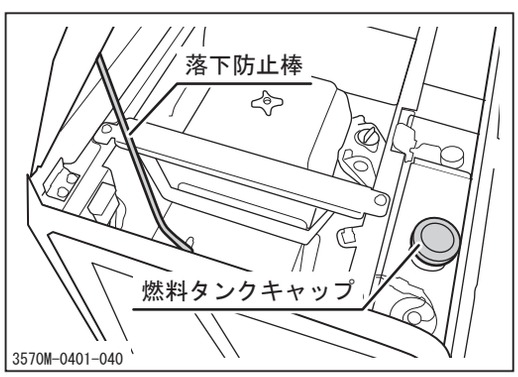


3. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。
4. メインスイッチを「 ○ （切）」にし、キーを抜き取ります。



補給

1. ハンドルにキーを差し込みロックを解除します。
2. ハンドルを引き、エンジンカバーを開けます。



3. 落下防止棒でエンジンカバーを確実に固定します。
4. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
5. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
6. 落下防止棒を元に戻し、エンジンカバーを閉め、ロックします。

アドバイス

- **使用燃料：自動車用無鉛ガソリン**
- **燃料タンク容量：20ℓ**

ステップの操作

⚠ 警　告

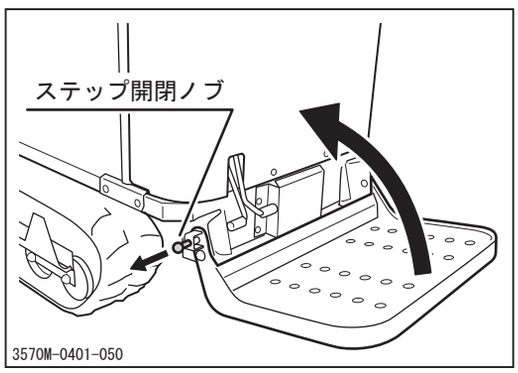
・本製品の乗車定員は１人です。運転者以外に人を乗せないでください。

・ステップの耐荷重は130kg以下です。制限荷重以上の人は乗車しないでください。

⚠ 注　意

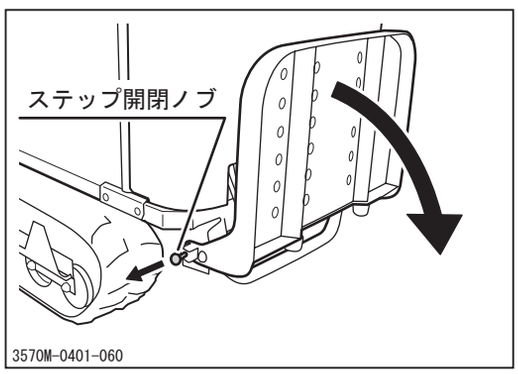
・ロック解除時およびステップの展開・格納時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・ステップの展開・格納後は確実にロックされていることを確認してください。



ステップの格納

1. ステップ開閉ノブを引きながら、ステップを持ち上げます。
2. ステップ開閉ノブをもどし、ステップを確実に固定します。



ステップの展開

1. ステップ開閉ノブを引きながら、ステップを手前に倒します。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警 告

・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。

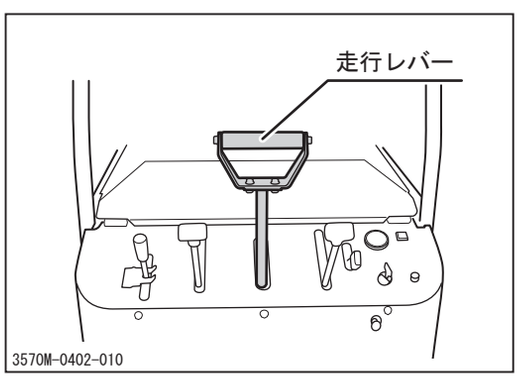
・エンジンの始動は必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

⚠ 注 意

・エンジン回転中は、メインスイッチを「 （始動）」に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。

・5秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを「 ○ （切）」に戻し、10秒以上休んでから再始動してください。

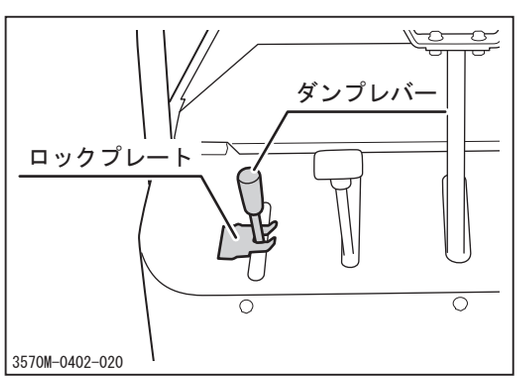
・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。



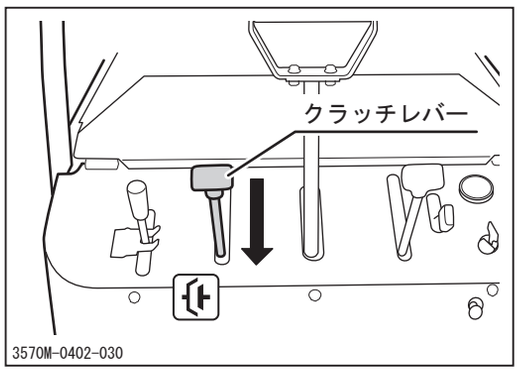
1. 走行レバーが「中立」にあることを確認します。

アドバイス

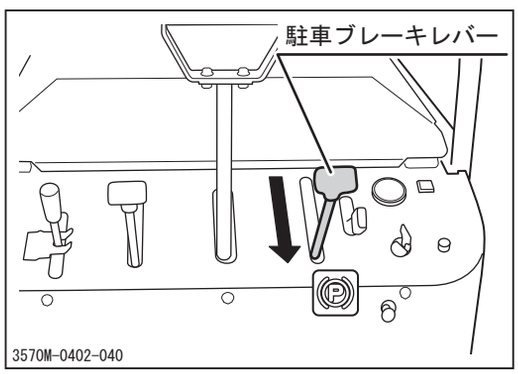
・本製品は始動安全装置を装備しているため、走行レバーが「中立」でないとエンジンを始動できません。



2. ダンプレバーが「中立」にあり、ロックプレートがロック位置にあることを確認します。



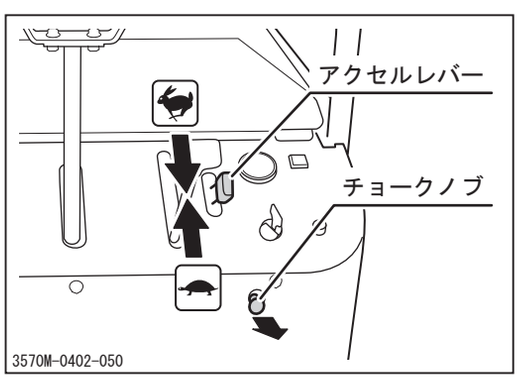
3. クラッチレバーが「 （切）」にあることを確認します。



4. 駐車ブレーキレバーが「 （入）」にあることを確認します。

アドバイス

・本製品は始動安全装置を装備しているため、駐車ブレーキレバーが「 （入）」でないとエンジンを始動できません。

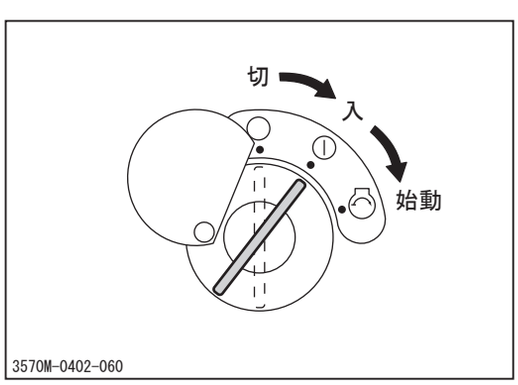


5. チョークノブを引きます。

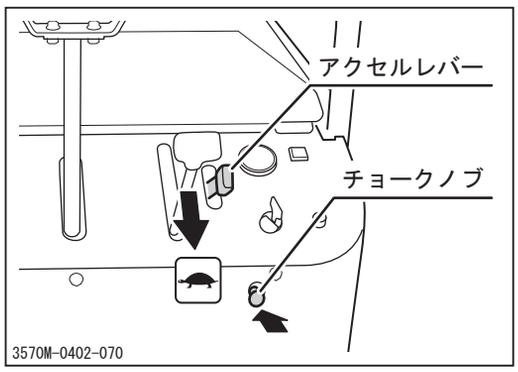
アドバイス

・エンジンが温まっているときはチョークノブを引く必要はありません。

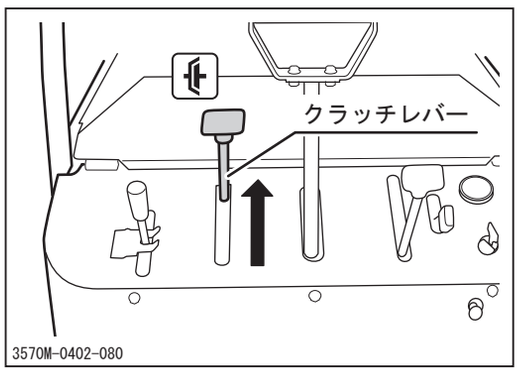
6. アクセルレバーを「 （高速）」と「 （低速）」の中間位置にします。



7. メインスイッチにキーを差し込みます。
8. メインスイッチを「 （始動）」まで回し、エンジンを始動させます。始動後はすぐにキーから手を離してください。キーは自動的に「 （入）」に戻ります。



9. アクセルレバーを「 （低速）」にします。
10. チョークノブを戻します。



11. クラッチレバーを「 （入）」にします。
12. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

アドバイス

・購入後、最初の40～50時間はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

⚠ 警　告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・発進前に必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。

・旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。

・急発進、急加速、急旋回、急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・走行中にメインスイッチを「 ◯（切）」にしないでください。

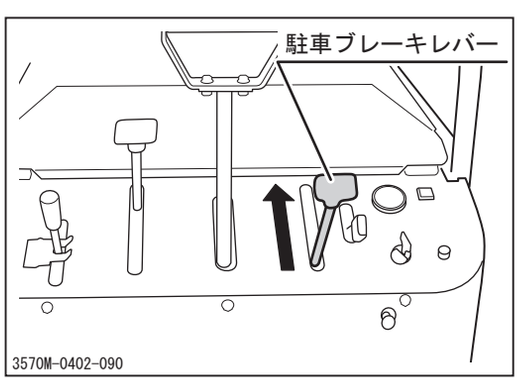
・乗車運転時は体の姿勢を保つために必ず片手で手すりを持ってください。

・歩行運転時は必ずステップを上げ、ゆっくりと走行してください。

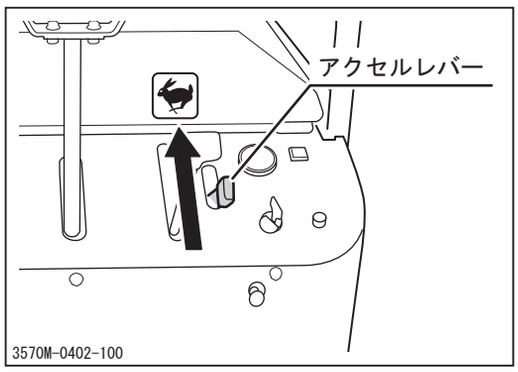
・歩行運転での後進時は、車両にはさまれたり、クローラに足を踏まれたりしないように注意してください。

⚠ 注　意

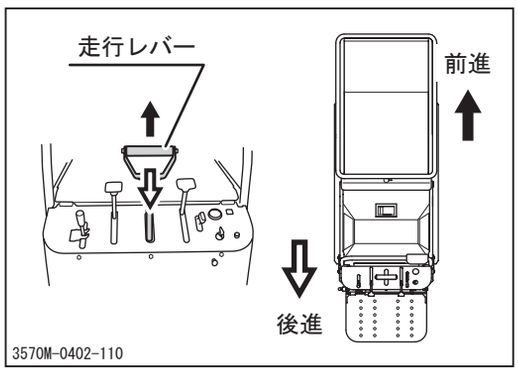
・駐車ブレーキが「 Ⓟ（入）」の状態で運転をしないでください。ブレーキが磨耗するおそれがあります。



1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 駐車ブレーキレバーを「切」にします。

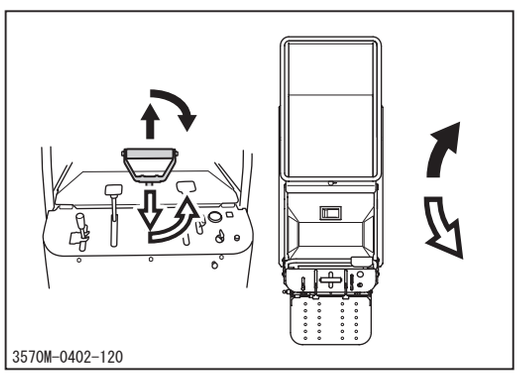


3. アクセルレバーを「 （高速）」にし、エンジンの回転数を上げます。



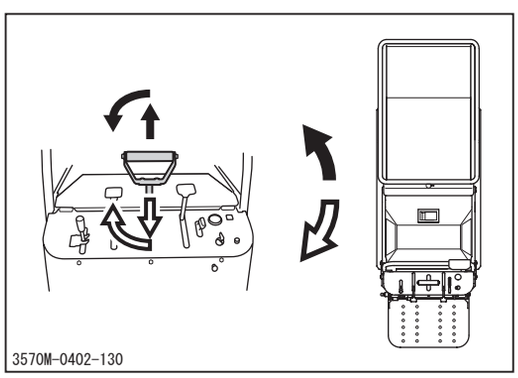
前後進する場合

4. 走行レバーを進行方向に徐々に倒し、ゆっくりと前後進させます。速度は走行レバーを倒す量により、任意に調節することができます。



旋回する場合

5. 走行レバーを旋回したい方向に徐々にひねり、ゆっくりと旋回します。旋回半径は走行レバーをひねる量により、任意に調節することができます。
6. 停止位置のまま走行レバーをひねるとその場でスピンターンをします。

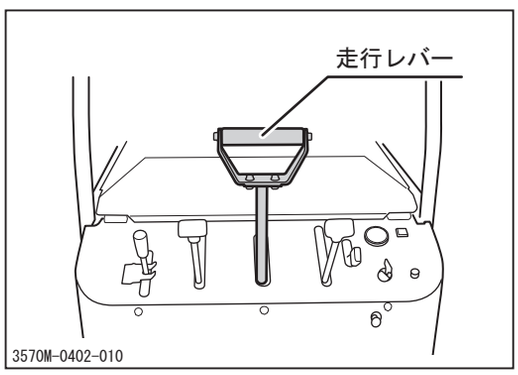


停止のしかた

⚠ 警　告

・走行レバーは必ず「中立」で手を離してください。

・急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



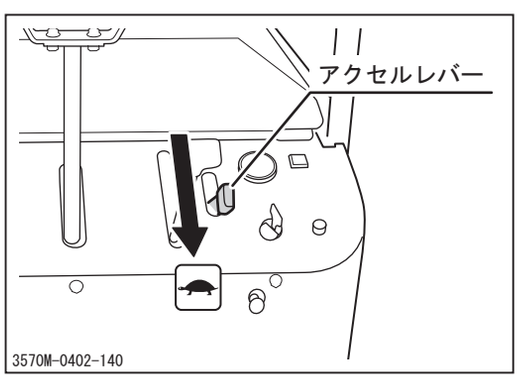
1. 走行レバーを「中立」に徐々に戻し、停止させます。

駐車のしかた

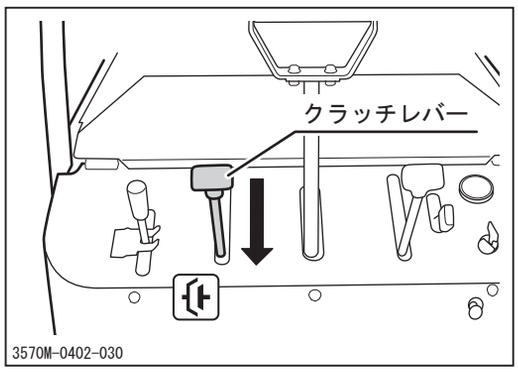
⚠ 警　告

・駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。

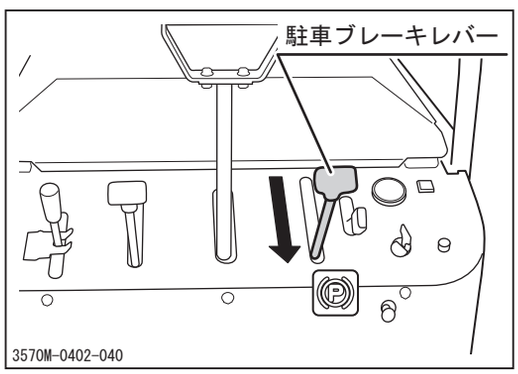
・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。



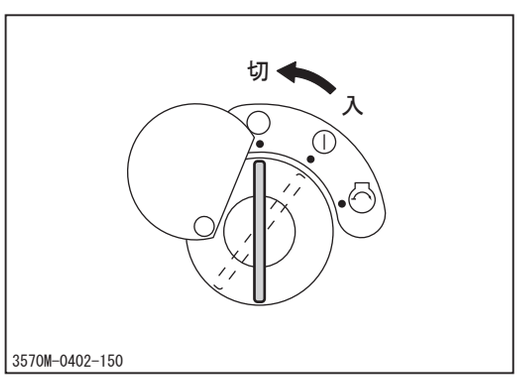
1. 車両を停止させます。
2. アクセルレバーを「🐢（低速）」にし、エンジンの回転数を下げます。



3. クラッチレバーを「 （切）」にします。



4. 駐車ブレーキレバーを「 （入）」にします。



5. メインスイッチを「 （切）」にし、エンジンを停止させます。
6. キーをメインスイッチから抜き取ります。

作業のしかた

ダンプ操作

⚠ 警 告

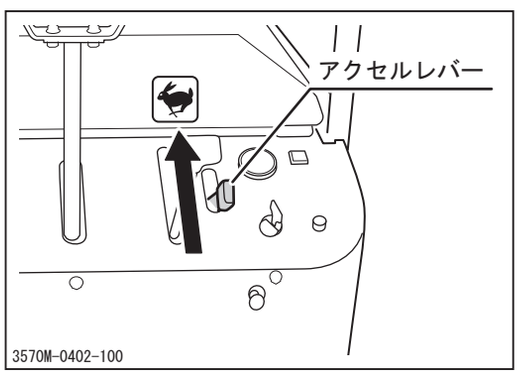
・ダンプ操作時は必ず周囲の安全を確認してください。

・傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。車両が転倒するおそれがあります。

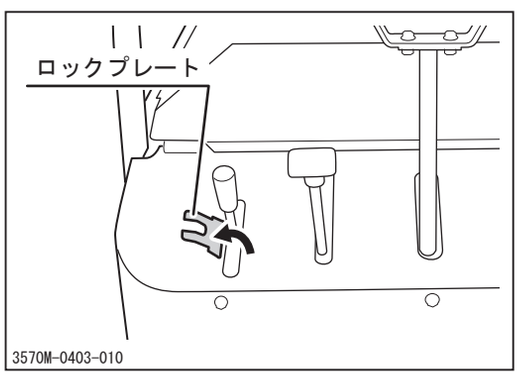
⚠ 注 意

・ダンプ操作は必ずエンジン回転時に行ってください。

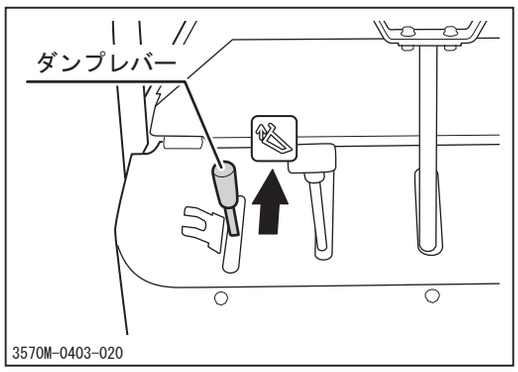
・積載したまま荷台を下降させる場合は、エンジン回転数を下げ、ゆっくりと下降させてください。



1. アクセルレバーを「 （高速）」にし、エンジンの回転数を上げます。

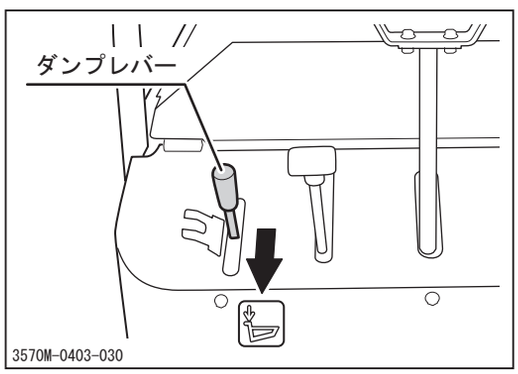


2. ロックプレートを解除します。

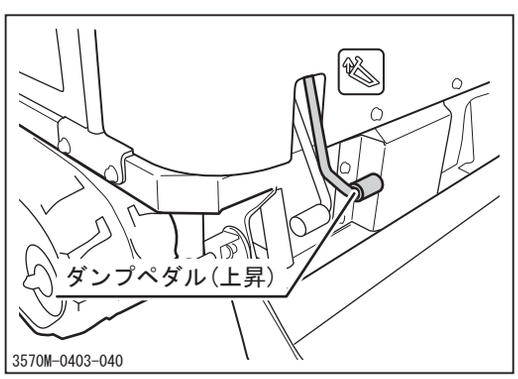


ダンプレバーでの操作

3. ダンプレバーを「 （上昇）」にし、荷台を上昇させます。
4. 荷台が上限まで上がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを「 ● （中立）」へ戻します。

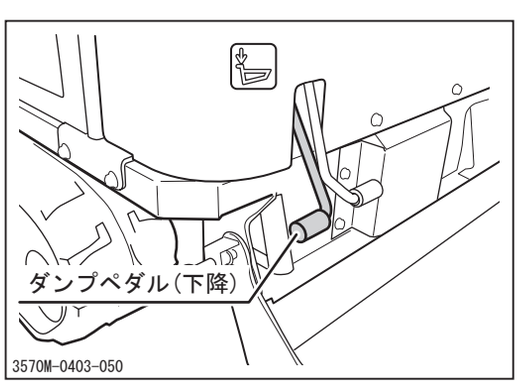


5. ダンプレバーを「 （下降）」にし、荷台を下降させます。
6. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを「 ● （中立）」へ戻します。

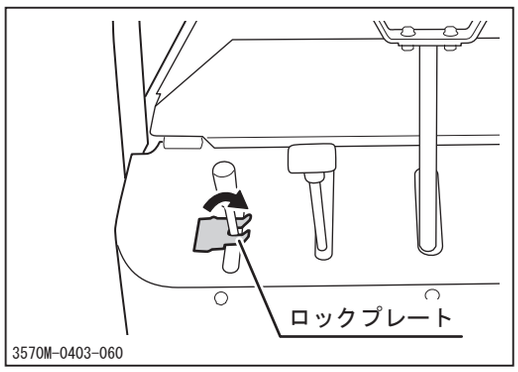


ダンプペダルでの操作

3. ダンプペダル（上昇）を踏み、荷台を上昇させます。
4. 荷台が上限まで上がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプペダルを戻します。



5. ダンプペダル（下降）を踏み、荷台を下降させます。
6. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプペダルを戻します。



7. ロックプレートを戻しロックします。

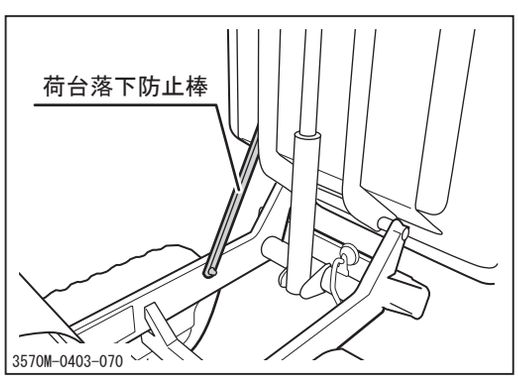
荷台落下防止棒の操作

⚠ 警 告

・点検等で荷台の下で作業をする場合には、必ず荷台落下防止棒で荷台を確実に支えてください。

⚠ 注 意

・荷台を下降させる前に、必ず荷台落下防止棒を元に戻してください。



1. 荷台を上昇させます。
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。

定期点検表

⚠ 注　意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

エンジンの点検

日常点検

・エンジンオイルの量と汚れ
・エアクリーナエレメントの汚れ
・燃料、オイル等の漏れ
・各部ボルト緩み、破損
・異常振動、異常音

定期点検

運転時間	8時間(毎日)	50時間(毎週)	200時間(毎月)	500時間
各部の清掃及び締付点検	○以下(毎日)			
エンジンオイル点検・補給	○以下(毎日)			
エンジンオイル交換	(初回20時間目)	○		
点火プラグの清掃		○		
エアクリーナの清掃		○		
燃料ストレーナの交換			○	
エアクリーナエレメントの交換			○	
点火プラグ間隙			○	
オイルフィルタの交換		(初回50時間目)	○	
吸排気弁隙間点検・調整				◎(300時間)
シリンダヘッドカーボン除去				◎
オイルパン清掃				◎
気化器清掃				◎
吸排気弁座点検すり合わせ				◎
燃料ホース交換				2年毎
オーバーホール				1000時間

◎印の点検項目は販売店に依頼してください

車両の点検

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	燃料装置	燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
		燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	
		燃料タンク内に水および沈殿物がないこと		○	○	
動力伝達装置	走行Ｖベルト	ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	点検/調整：☞41ページ
		ベルトに著しい摩耗、損傷、汚れまたは油脂の付着がないこと		○	○	
	トランスミッション	走行時に異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	ＨＳＴポンプ	操向レバーを前後左右に操作して走行し、異音や異常発熱が無く正常に走行すること	○	○	○	
		作動油タンク周辺からの油漏れが無いこと		○	○	
	リンク類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
走行装置	転輪 遊動輪 スプロケット	亀裂、変形および著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		軸部にガタ、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		軸部周辺より油漏れがないこと		○	○	
	クローラ	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		緩みまたは張り過ぎがないこと	○	○	○	調整：☞39ページ
		張りボルトに変形、腐食がないこと	○	○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
制動装置	駐車ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	調整：☞42ページ
		ブレーキ作動時に20度の勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
油圧装置	ギヤポンプ	ギヤポンプ周辺からの油漏れがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ギヤポンプ作動時に異常振動、異音、発熱のないこと		○	○	
		負荷をかけたときのギアポンプの吐出量と吐出圧がメーカーの基準値内であること ※上記の異常振動、異音、発熱が認められない場合はこの検査を省略してもよい			○	
	油圧バルブ	油圧バルブ周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	油圧Vベルト	ベルトの張りが適正であること		○	○	点検/調整：☞38ページ
		ベルトに著しい摩耗、損傷、汚れまたは油脂の付着がないこと		○	○	
	配管	配管に亀裂、損傷、ねじれまたは劣化がないこと		○	○	
		パイプ、ホース、接続部、シールに漏れが無いこと		○	○	
		配管の取付状態が適正で、ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ブリーザに目詰まりのないこと		○	○	
	油圧シリンダ	円滑に作動すること		○	○	
		シリンダを伸縮作動させた時にシール部からの油漏れがないこと		○	○	
		シリンダに負荷をかけて静止させた時の伸縮量がメーカー指定の基準値内であること			○	
		シリンダチューブおよびロッドに打痕、亀裂、曲がりまたは擦り傷がないこと		○	○	
		シリンダ取付ピンに損傷または著しい摩耗がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
車体・荷台等	シャーシフレーム	亀裂、変形、腐食などが無いこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットの緩み、脱落がないこと		○	○	
	カバー	亀裂や変形のないこと		○	○	
		開閉部が正常に開閉、ロックすること		○	○	
		取付ボルトおよびナットの緩み、脱落がないこと		○	○	
	荷台バケット	荷台がスムーズに上下すること		○	○	
		亀裂、変形、腐食が無いこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットの緩み、脱落がないこと		○	○	
	荷台落下防止棒	変形が無いこと		○	○	
	ラベル	警告ラベルや指示ラベルに損傷がなく、きれいできちんと読み取れること	○	○	○	
電気装置	バッテリ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	点検/補給：☞43ページ
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
		配線に損傷がないこと		○	○	
	作業ランプ	ランプが点灯すること	○	○	○	
		ランプのレンズに欠けや亀裂がなく、内部に水の浸入のないこと		○	○	
	ホーン	ホーンが鳴ること	○	○	○	

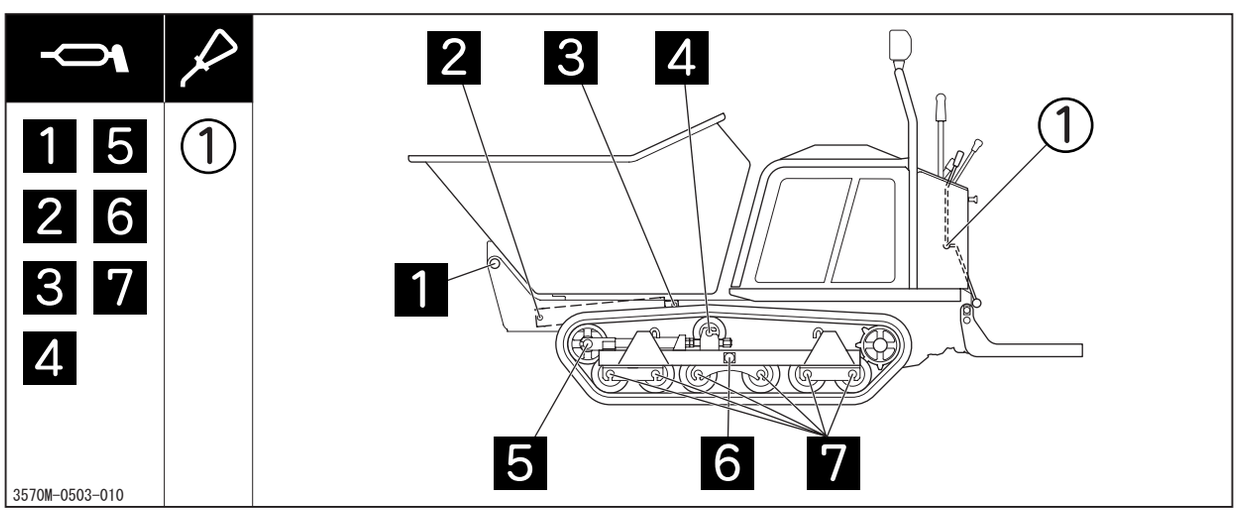
給油・給水一覧表

項　　目	補　給（交　換）時　期	推　　奨　　品	容　量
燃　　料	随時	自動車用無鉛ガソリン	20ℓ
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：20時間 2回目以降：50時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30	1.4ℓ 1.55ℓ*1
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：100時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	2.0ℓ
油圧作動油	交換　初回：50時間 2回目以降：100時間毎	高粘度指数油圧作動油 ISO VG46	23ℓ
バッテリ液	補給　50時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	-

*1　オイルフィルタカートリッジ交換時

給脂・注油一覧表

項　　目	補　給（交　換）時　期	推　　奨　　品	容　量
給脂箇所	半年毎	シャーシグリース	-
注油箇所	半年毎	ギヤオイル API分類 GL4 または 5 SAE分類 #80	-



アドバイス

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。
・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒で十分です。

消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

・消耗部品の交換時は必ず当社指定部品を使用してください。

項　　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
オイルフィルタカートリッジ	248-65011-A3	初回：50時間、2回目以降：200時間毎	1
エアクリーナエレメント	263-32610-A1	200時間毎またはシーズン毎	1
点火プラグ（NGK BPR5ES）	065-01402-80	50時間毎に清掃し、不具合があれば交換	2
走行装置			
走行Ｖベルト（SB48）	08521500048	不具合があれば交換	2
クローラ	35702021000	使用限度に達するか不具合があれば交換	2
ブレーキシュー	73014007000	不具合があれば交換	2
油圧装置			
油圧Ｖベルト（LA35）	08511600035	不具合があれば交換	1
油圧ホース（ダンプ）	－	2年毎または不具合があれば交換	1
油圧ホース（オイルクーラ）	－	2年毎または不具合があれば交換	1
油圧ホース（ＨＳＴ）	－	2年毎または不具合があれば交換	1
サクションフィルタ	36636029000	500時間毎	1
ラインフィルタ	35706161000	500時間毎	1
電装品			
バッテリ（40B19R）	37053901000	不具合があれば交換	1
ヒューズ5A（タン）	09801000502	不具合があれば交換	3
ヒューズ30A（緑）	09801003002	不具合があれば交換	1
ライトバルブ	09808121844	不具合があれば交換	1

アドバイス

・ホースなどのゴム製品は使わなくても劣化する消耗品ですので、2年毎に新品と交換してください。

・クローラの使用限度：ラグ高さ5㎜

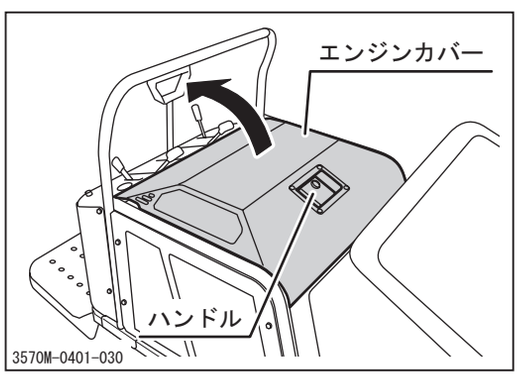
カバーの開けかたおよび取り外しかた

⚠ 注　意

・カバーの開閉時および取り外し・取り付け時に手や指を切ったり、はさんだりしないように十分注意してください。

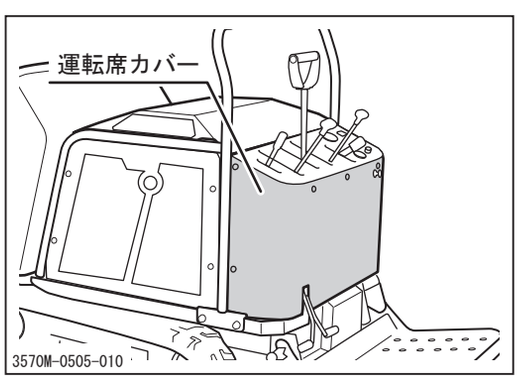
・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

エンジンカバーの開けかた



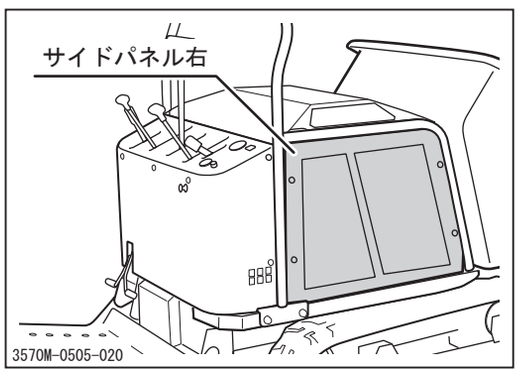
1. ハンドルにキーを差し込みロックを解除します。
2. ハンドルを引き、エンジンカバーを開けます。
3. 落下防止棒でエンジンカバーを確実に固定します。

運転席カバーの取り外しかた

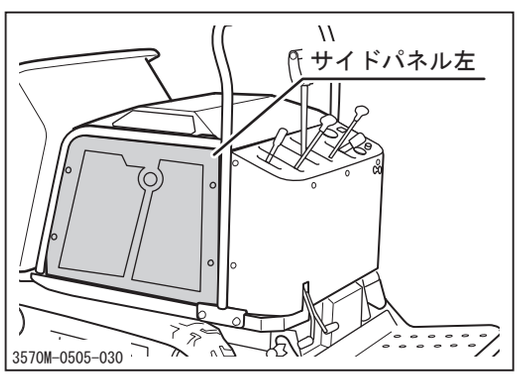


1. ボルト（9本）を取り外し、運転席カバーを取り外します。

サイドパネルの取り外しかた

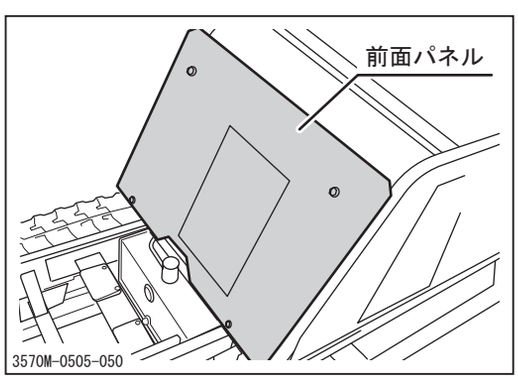


1. ボルト（4本）を取り外し、サイドパネル右を取り外します。



1. ボルト（4本）を取り外し、サイドパネル左を取り外します。

前面パネルの取り外しかた



1. 荷台を上昇させます。
2. 荷台を荷台落下防止棒で確実に固定します。
3. ボルト（4本）を取り外し、前面パネルを取り外します。

エンジン

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

・燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

エンジンオイルの点検・補給・交換

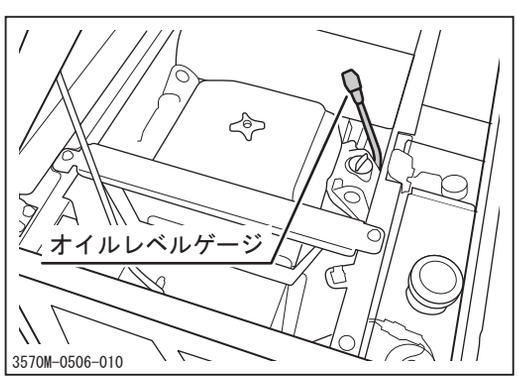
⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

アドバイス

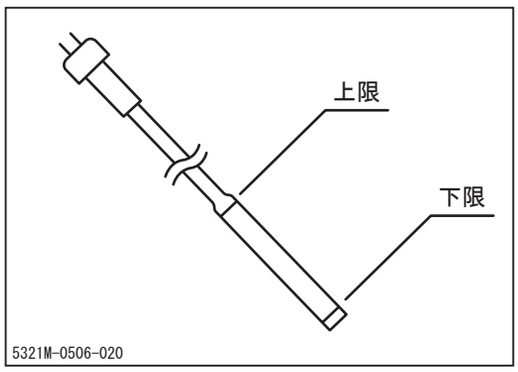
・オイル量の点検はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。

・指定オイル、オイル量：☞29ページ

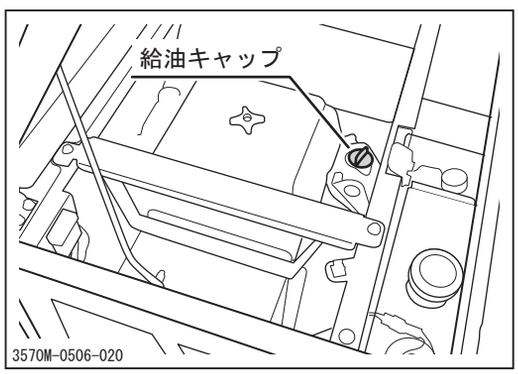


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. オイルレベルゲージを取り外し、オイルを拭き取ります。
4. オイルレベルゲージを取り付け、再び取り外します。

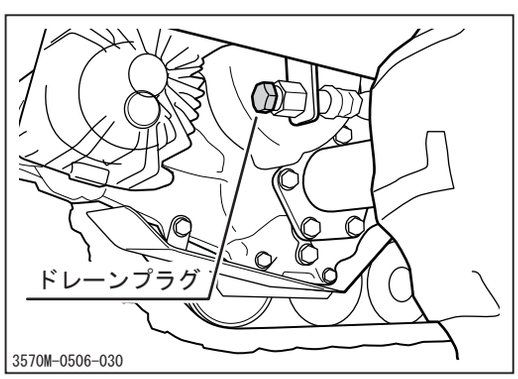


5. オイル量を目視点検し、オイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。下限より少ない場合は補給します。
6. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。
7. オイルレベルゲージを取り付けます。
8. エンジンカバーを閉めます。



補給

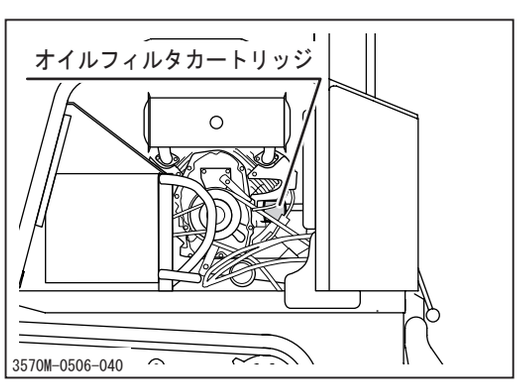
1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油キャップを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
4. オイル量を点検し、オイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
5. 給油キャップを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

オイルフィルタカートリッジの交換



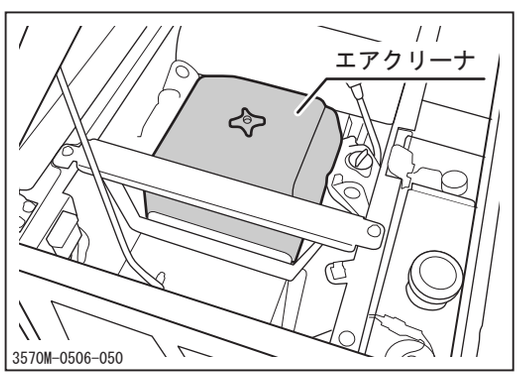
1. サイドパネル左を取り外します。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、オイルフィルタカートリッジの交換を行います。
3. サイドパネル左を取り付けます。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注　意

・エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、定期的に清掃するように心がけてください。

・エレメントに破損している場合は、すぐに新品と交換してください。



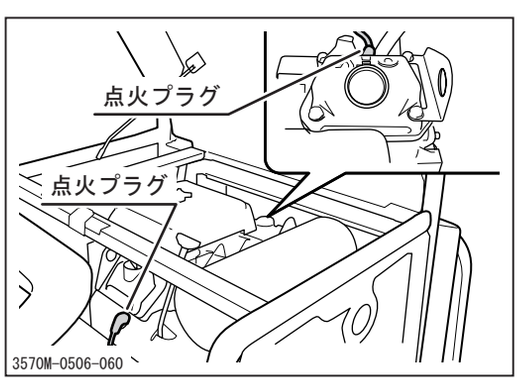
1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エアクリーナエレメントの清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注　意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。

・点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。



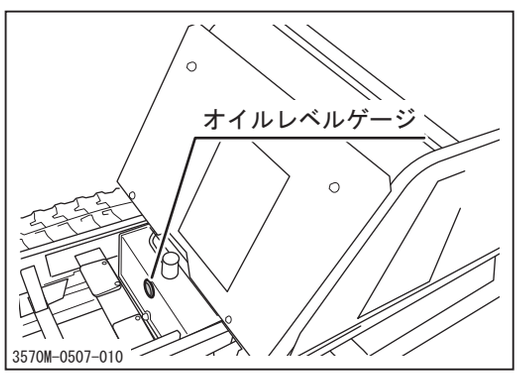
1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

油圧系統

油圧作動油の点検・補給・交換

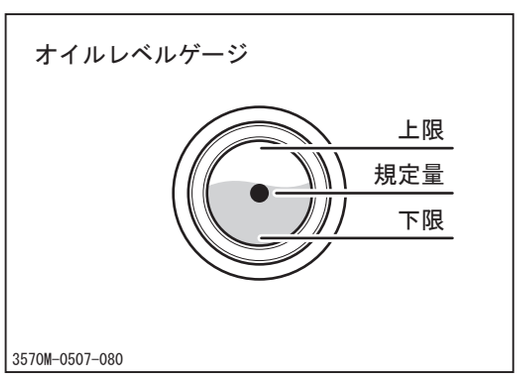
アドバイス

- オイル量の点検はエンジン始動前かＨＳＴオイルが十分冷えてから行ってください。エンジン停止直後はオイルが膨張しており、正確なオイル量が点検できません。
- 油圧作動油の交換時はラインフィルタとサクションフィルタも同時に交換してください。
- 指定オイル、オイル量：☞29ページ

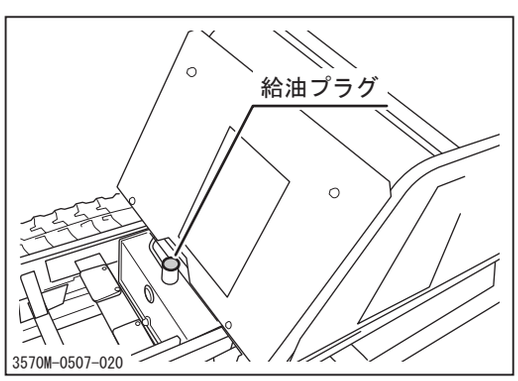


点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
3. オイルレベルゲージを目視点検し、オイルの量および汚れを確認します。

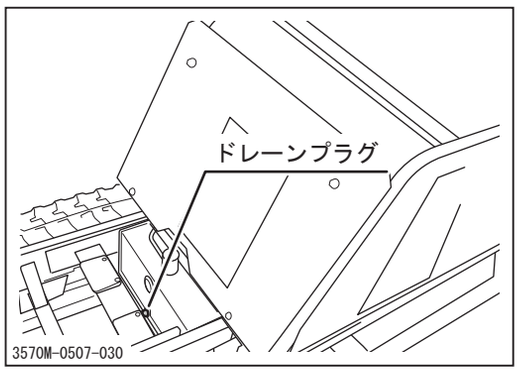


4. オイル量が上限と下限の間にあることを確認します。不足している場合は補給します。
5. オイルの汚れがひどい場合は交換します。
6. 荷台落下防止棒を元に戻し、荷台を下降させます。



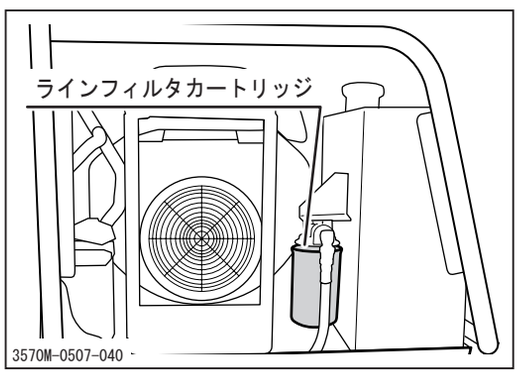
補給

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. 給油プラグを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。
4. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
5. 給油プラグを確実に取り付けます。
6. 荷台落下防止棒を元に戻し、荷台を下降させます。

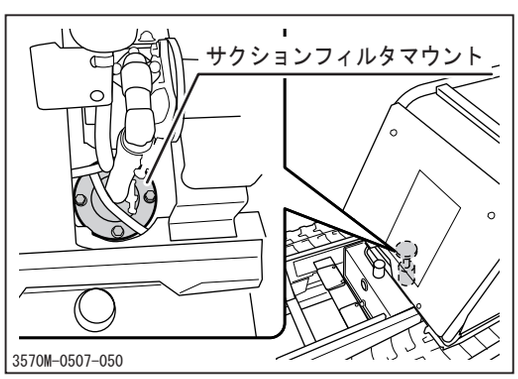


交換

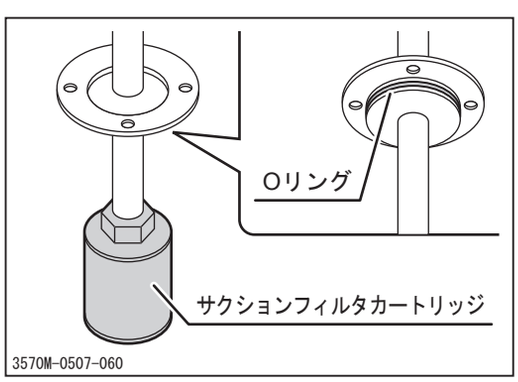
1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. サイドパネル右と前面パネルを取り外します。
3. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。



6. オイルフィルタレンチを使用し、ラインフィルタカートリッジを取り外します。
7. 新品のラインフィルタカートリッジのシール部にきれいなオイルを薄く塗布します。
8. ラインフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。



9. ボルト（4本）を取り外しサクションフィルタマウントを取り外します。



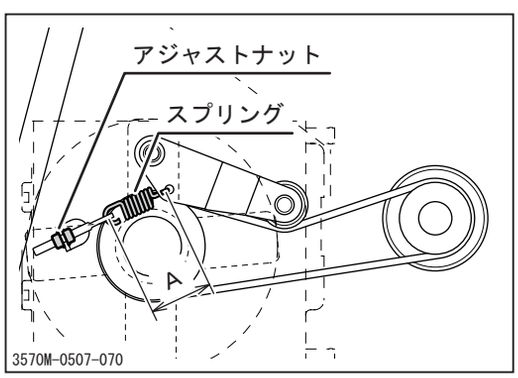
10. サクションフィルタカートリッジを交換します。
11. Oリングにきれいなオイルを薄く塗布し、Oリングが外れないようにサクションフィルタマウントをタンクに挿入します。
12. ボルトを取り付け、サクションフィルタマウントを固定します。

13. オイルを規定量補給します。
14. エンジンを始動し、オイルを循環させます。オイルの漏れが無いか確認します。
15. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
16. サイドパネル右と前面パネルを取り付けます。
17. 荷台落下防止棒を元に戻し、荷台を下降させます。

油圧Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。



1. サイドパネル左を取り外します。
2. クラッチレバーを「 （入）」にします。
3. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングのフック内寸Ａが65～68㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
4. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
5. サイドパネル左を取り付けます。

走行装置

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

クローラの調整

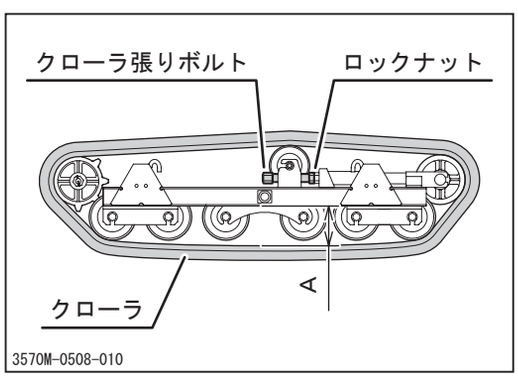
⚠ 警　告

・ジャッキアップした場合は、シャシフレームに支持台をあて、確実に車体を保持してください。

⚠ 注　意

・クローラは新品時の初期伸びやスプロケットとのなじみによるゆるみが発生するので、定期的な張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりするおそれがあります。

・クローラは重量があるので取り扱いには十分注意してください。

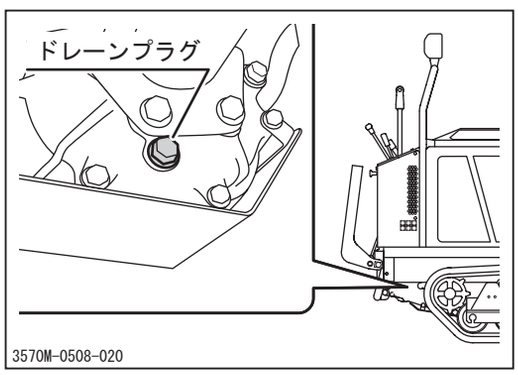


1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. ロックナットを緩めます。
4. クローラとフレームの隙間Ａが130～140㎜になるようにクローラ張りボルトで調整します。
5. ロックナットを確実に締め付けます。
6. 車両を降ろします。

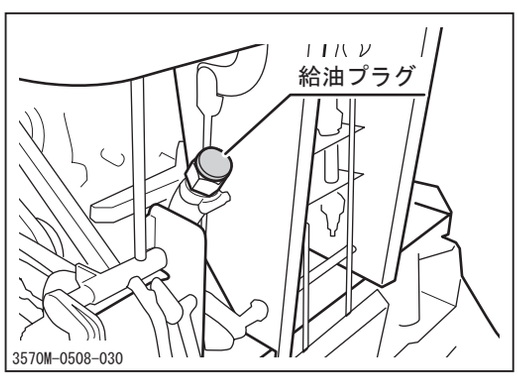
トランスミッションオイルの交換

アドバイス

・指定オイル、オイル量：☞29ページ



1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。

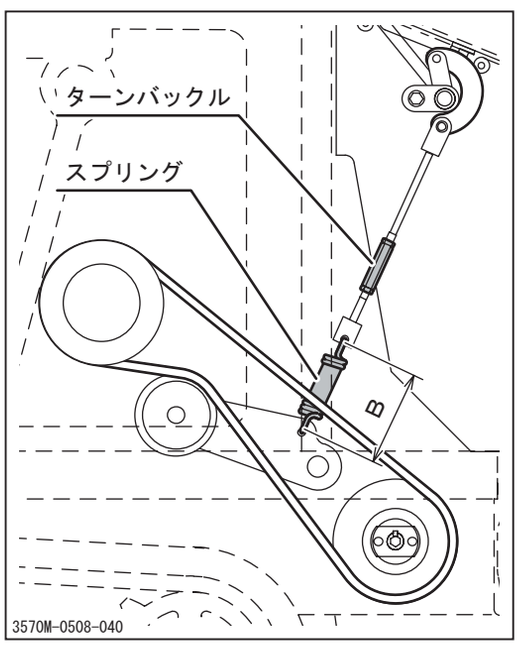


5. 運転席カバーを取り外します。
6. 給油プラグを取り外します。
7. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. 運転席カバーを取り付けます。

走行Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。

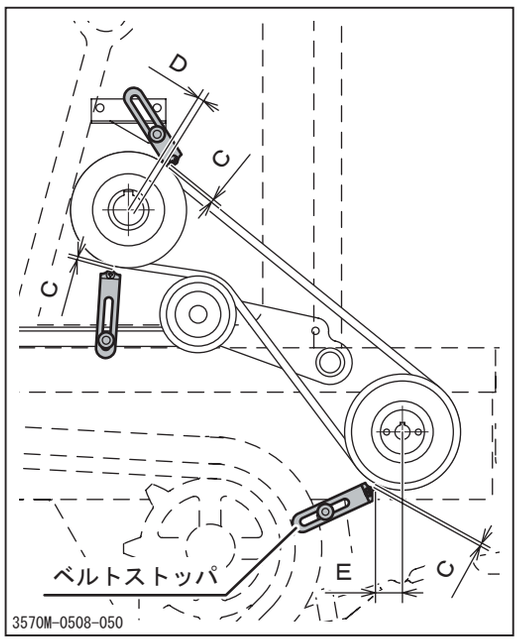


1. 運転席カバーとサイドパネル左を取り外します。
2. クラッチレバーを「 （入）」にします。
3. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングのフック内寸Ｂが111～114㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合にはターンバックルで調整します。
4. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
5. クラッチレバーを「 （切）」にします。
6. 運転席カバーとサイドパネル左を取り付けます。

ベルトストッパの点検・調整

点検

1. 運転席カバーとサイドパネル左を取り外します。
2. クラッチレバーを「 （切）」にします。
3. エンジンを始動し、走行Ｖベルトが付きまわりをしていないことを確認します。付きまわりをしている場合はベルトストッパを調整します。
4. エンジンを停止します。
5. 運転席カバーとサイドパネル左を取り付けます。



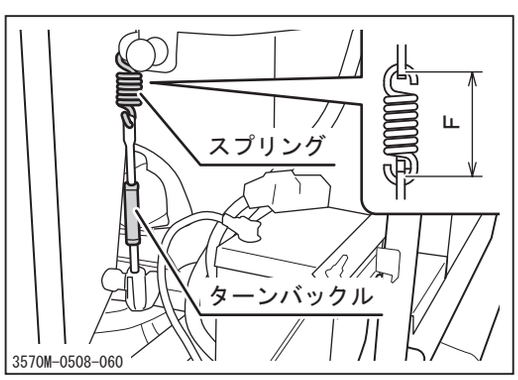
調整

1. 運転席カバーとサイドパネル左を取り外します。
2. クラッチレバーを「 （入）」にします。
3. ベルトストッパとベルトの間隔Ｃが約5～6㎜、距離Ｄが約10～20㎜、トランスミッションプーリの中心とその横にあるベルトストッパの突起の水平方向の間隔Ｅが約15～35㎜となるようにベルトストッパの位置を調整します。
4. クラッチレバーを「 （切）」にします。
5. エンジンを始動し、ベルトが付きまわりをしていないことを確認します。
6. エンジンを停止します。
7. 運転席カバーとサイドパネル左を取り付けます。

駐車ブレーキの点検・調整

⚠ 警 告

・ブレーキの効きが悪くなった場合は、すぐに点検・調整をしてください。



1. 運転席カバーを取り外します。
2. 駐車ブレーキレバーを「 （入）」にします。
3. スプリングの伸びを点検します。スプリングのフック内寸Ｆが66～68㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合にはターンバックルで調整します。
4. 運転席カバーを取り付けます。

電装品

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

バッテリ液の点検・補給・充電

⚠ 警　告

・バッテリ液量が「LOWER LEVEL」以下になったままで使用または充電をしないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。

・バッテリ液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

・バッテリに火気を近づけないでください。

・バッテリの充電は車両から取り外して行ってください。

・バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意

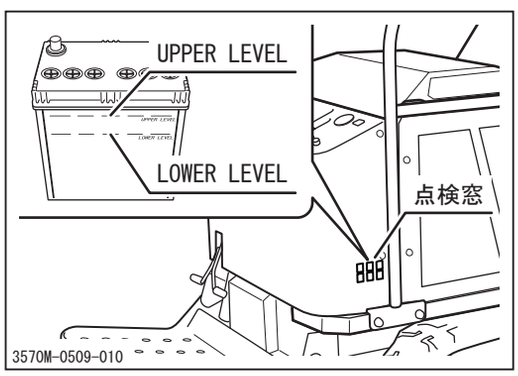
・バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「UPPER LEVEL」以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。

・バッテリを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

・バッテリ端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。

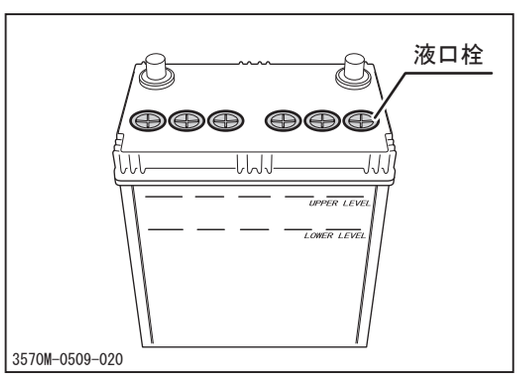
⚠ 注　意

・バッテリ端子をバッテリに取り付けるときには（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。



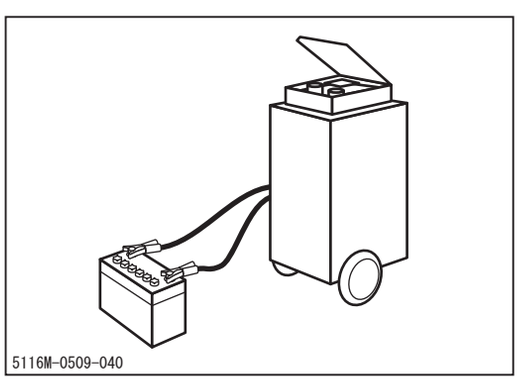
点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. 点検窓よりバッテリ液量を目視点検します。
3. バッテリ液量が「UPPER LEVEL」（以下U.L）と「LOWER LEVEL」（以下L.L）の間にあることを確認します。バッテリ液量が「L.L」に近い場合は補給します。



補給

1. 運転席カバーとサイドパネル右を取り外します。
2. 液口栓を取り外します。
3. 蒸留水を「U.L」まで補給します。
4. 液口栓を取り付けます。
5. 運転席カバーとサイドパネル右を取り付けます。



充電

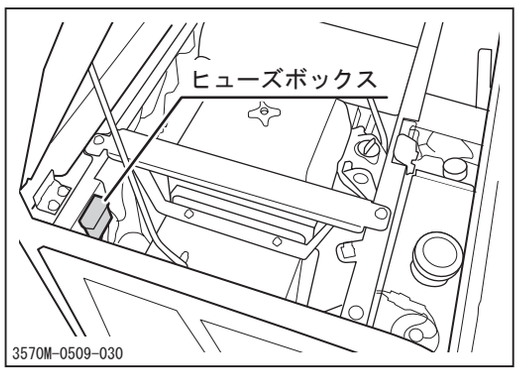
1. 運転席カバーとサイドパネル右を取り外します。
2. バッテリを取り外します。
3. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリを充電します。
4. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。
5. 運転席カバーとサイドパネル右を取り付けます。

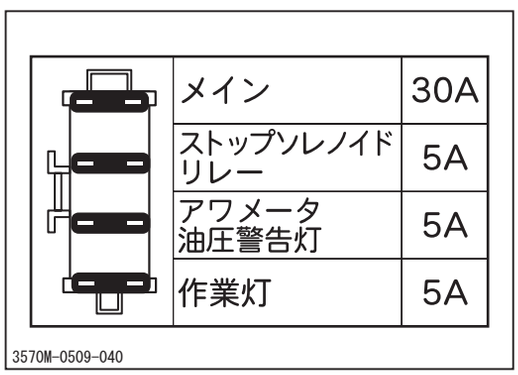
ヒューズの点検・交換

⚠ 注　意

・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。

・ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。





1. エンジンカバーを開け、落下防止棒で確実に支えます。
2. ヒューズボックスのカバーを外します。
3. ヒューズを取り外し、ヒューズが切れていないかをチェックします。切れている場合にはヒューズを交換します。
4. ヒューズを取り付けます。
5. ヒューズボックスのカバーを取り付けます。
6. エンジンカバーステーを外しエンジンカバーを閉めます。

使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警　告

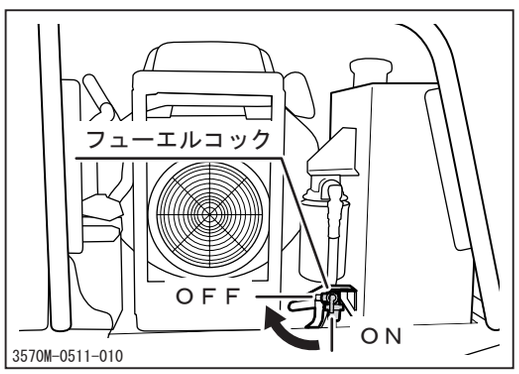
・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に格納しないでください。



1. **「駐車のしかた」**（☞20ページ）の手順に従い、車両を駐車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. エンジンオイルを交換します。
4. エアクリーナエレメントを清掃します。
5. サイドパネル右を取り外し、燃料コックを「ＯＦＦ」にします。サイドパネル右を取り付けます。
6. 車両からバッテリを取り外し、バッテリ液の点検・補給を行います。
7. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。
・エンジンを始動するときは、燃料コックを「ＯＮ」にすることを忘れないでください。

６　不具合発生時の処置

不具合診断表

・不具合と考えられる現象が起きた場合は直ちに本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、弊社代理店へご相談ください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の機材が必要なものが含まれています。その場合は弊社代理店へお問合せください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	駐車ブレーキが「入」になって安全装置が作動している。	→駐車ブレーキを解除する	
		バッテリあがり	→バッテリ液を補給する →バッテリを充電する →バッテリを交換する	43ページ
		バッテリケーブルの外れ	→バッテリケーブルを接続する	
		ヒューズ切れ	→交換する	45ページ
		燃料切れ	→補給する	12ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		フューエルコックが「ＯＦＦ」になっている	→「ＯＮ」にする	47ページ
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	33ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	35ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問合せください	
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	12ページ
		暖機運転の不足	→十分暖気する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	12ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンが停止しない		→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	吸入空気量の不足（エアクリーナの目詰まり）	→清掃または交換する	35ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不良	燃料不良	→燃料を交換する	
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	33ページ
		吸入空気量の不足（エアクリーナの目詰まり）	→清掃または交換する。	35ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		走行Ｖベルトの緩み	→調整する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	33ページ
		冷却ファンの目詰まり	→清掃する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	35ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→燃料を交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	35ページ
		チョークノブが完全に戻っていない	→チョークノブを戻す	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	エンジンオイルが入り過ぎている	→オイル量を調整する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	走行レバーを動かしても車両が動かない	クラッチが切れている	→クラッチを接続する	
		駐車ブレーキが利いている	→駐車ブレーキを解除する	
		過積載	→積荷を減らす	
		作動油の不足または劣化	→補給または交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	クローラが円滑に回転しない	調整不良	→調整する	39ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	クローラ周りの異音または異常振動		→販売店へお問い合わせください	
	ブレーキの効きが悪い	調整不良	→調整する	42ページ
		ブレーキに水が浸入している	→何回かブレーキをかけ中の水を乾かす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
安全装置関連	ランプの点灯不良	球切れ	→交換する	
		ヒューズ切れ	→交換する	45ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ホーンの作動不良	ヒューズ切れ	→交換する	45ページ
油圧（ダンプ）装置	ダンプ装置が作動しない	作動油の不足または劣化	→補給または交換する	36ページ
		油圧Ｖベルトの緩み	→調整する	38ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびトラックの周辺には人を近づけないでください。

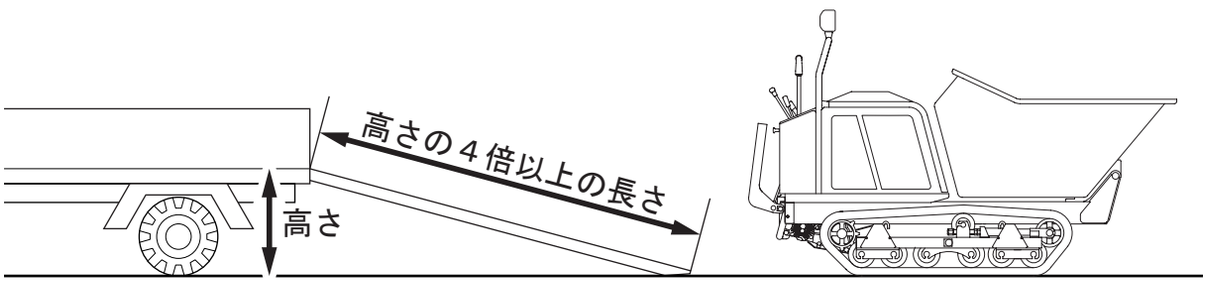
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の1.2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・積み降ろしは歩行運転でゆっくりと行なってください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. ステップを上げ、歩行運転、後進でゆっくりと積み込みます。
4. **「駐車のしかた」**（☞20ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

クレーン等による吊り上げ要領

⚠ 警 告

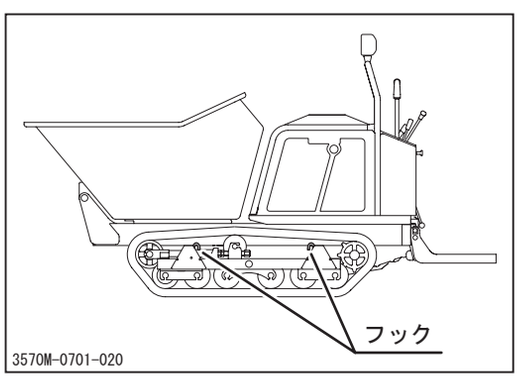
・クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。

・十分な強度を持った玉掛用スリングを使用してください。複数使用する場合は必ず同じ長さのものを使用してください。

・吊り上げ作業は必ず空車状態で行ってください。

⚠ 注 意

・ワイヤーロープで吊り上げないでください。クローラを痛めます。



1. フック（4ヶ所）に玉掛用スリングを掛け、車両を吊り上げます。